

第49回 エフエム伊東 番組審議委員会

議事録

会議場所

伊東ふれあいセンター4階会議室

日時

令和元年 5月17日  
13:30~14:30

出席者

・佐藤 文彦 様 ・渡邊 将 様 ・山田 毅 様  
(意見書) ・片山 清香 様 ・平山 智香子 様

【議事】

- 代表取締役より挨拶、現状説明
- 新番組、新コーナーの説明
- SBSと県域コミュニティFM12局と災害時地域包括連携の締結について説明
- 委員より意見、質疑応答等

審議委員) 伊東南部、宇佐美地域が聴取できない状況をどうするか、今後の展望は？

FM伊東 ) 出力を上げることで地域拡大は狙えるが、異なるエリアの電波域に入ってしまうので、限られた数値の中で放送している。  
現在設置しているアンテナを小室山に移動すれば、出力を上げることができ、中継機を設置すれば、伊東南部で聞くことができ、市内エリアの80%はカバーできる。しかし実現には約3年かかる。聴取域拡大という観点では、インターネットを使ったサイマルラジオを7月から始める計画でいる。伊東の観光情報を外部に発信できる。市外にも観光情報を流す役割を担って欲しいと旅館、ホテルからの声もあった。

審議委員) サイマル放送が始まったら、QRコードでの利用促進や告知を進めてほしい。

審議委員) 友人知人が出演したなどの情報があっても、電波が届かない地域に住んでいて聞けないという声があるので、どこでも聞けるようになったらありがたい。

審議委員) アニメ関連、星など、ある一定層へ訴求効果のある番組、アーティストの出演など今まで聞きたいけれど聞けなかったというリスナーへの対応もできるようになる。

FM伊東 ) サイマルラジオで聞けることになると、災害時にスマホがあればラジオが聞ける。地域包括連携協定でも災害時には、サイマル放送を活用することになっている。市内停電時などテレビなどで情報収集ができない場合に、スマホでラジオが聞けるという面でも役立てることができる。

審議委員) 放送番組のターゲットに合わせた内容、CMになっているか？

FM伊東 ) 現在は年齢が高い層向けの番組に偏っている。

審議委員) ターゲットを特定した番組を作ったりすることで効果を図ることも必要なのではないか。

- 審議委員) インターネットで放送を聞けるので年齢層が下がる可能性があり、そういった年齢層をターゲットにした番組もあっていいのではないか。
- 審議委員) 学校など教育機関や子供がいる場所などに取材したり出演してもらうことで、親世代が聞ききっかけになる。
- 審議委員) 子供たちに取材し、その様子を昼の放送などで流してもらうことはできないか？
- FM伊東 ) 校長会に参加させてもらった際に、取材や行事の告知があれば、取材に行くことについては了承は得ている。
- 審議委員) 自局での放送にこだわらず、生徒や学生が出演した発表会の音源やインターンシップで作った番組の音源を提供してもらい放送し、学校での放送を依頼することなど良いのではないか。
- 審議委員) ラジオは時計代わりになる。この番組だから何時になった、何時になったからこの番組を聞きたいという感覚をつけるために、決まった日や時間に子供たちの放送をすることで親世代や子供たちのリスナーの定着につなげることができるのではないか。
- 審議委員) 放送された「星空スケッチ」の内容を例に星空観察会などできないのか？
- FM伊東 ) 再放送の時間を調整などすれば対応が可能になる。  
作成している番組と連携がとれるイベントを組み込んだりすると、イベントに参加した方で興味を持った方がラジオを聞いてくれるかもしれない。
- 審議委員) ファンがついているような番組、特に自局制作番組については、聞き逃してしまった方へ、いつでも聞けるように一度放送した音源をホームページに載せたりすることも、リスナー獲得につながるのではないか。
- 審議委員) 市長に予算の件を伺ったところ、予算は下りているとのこと、どのような予算取りできるのか？  
意見書 また、広報放送の情報はFM伊東で、どのように放送されているのか？
- 審議委員) 市としても災害時に必要な拠点であることから、アンテナ拠点を大室山から小室山へ移設して伊東南部に聞けるよう中継機の設置ができる予算を組んでいる。広報いとうの内容は「伊東シティインフォメーション」で放送している。それ以外の緊急情報はFAXやメールサービスを受信して、その日のパーソナリティが都度放送している。